

〔名家手簡二集上〕爲新曆之御賀禮、貴翰忝致拜見候、御萬福御履新之事、珍重奉存候、拙者事無恙迎歲仕候、而去冬者、御精選之一冊御芳惠不知所謝、前書に縷々呈謝□□□定而其書可達几下奉存候、猶期永日萬慶可申伸候、恐惶謹言、

正月廿五日

新井勘解由

稻若水様 貴報

〔名家手簡三集上〕如教諭新年御嘉祥無際限申納候、愈御安勝御迎歲被成候旨、目出度奉存候、僕無恙致加年候被懸御心頭、早々預御祝書不淺忝奉存候、右貴酬年始御祝詞旁如斯御座候、□□□期永春之時候恐惶謹言、

正月十八日

梁田藤九郎

伊藤庄助様 貴報

〔年中恒例記〕年中御對面并雜事少々

正月十日略○中 一御參内事略○中 禁裏様御座所之御障子を内より長橋殿あけられ候時略○中

かく御禮を御申也、其時長橋殿請じ被申て略○中 仍三獻參略○中 三獻めの御盃、禁裏様きこしめさ

る、とき御平鞘を傳奏持參候て、御進上の上しを禁裏様へ被申入候て、禁裏様御座候御右の御

た、みの上に置被申候也略○中 一殿上人の役にて御平鞘を被持て、御ひさしの外の御ゑんに、

御前に御伺候間被申候、則これをも御劔の役と申也、三獻めに禁裏様へ御進上の御ひらざやは、

又別に在之、但御ひらざや二振御座なきときは、禁裏様に御座候を、從内儀傳奏被申出之候て、御

進上之云々、依後日に御ひらざやの代として、御倉より千疋おさめ申也、是も折紙を傳奏候へ侍

に御供同朋衆渡之、

〔光臺一覽〕抑禁中肇春之御儀式略○中 十三日迄之内、法親王諸門跡方院家總洛中の御禮也略○中

献上